

第 5 回 津島市総合計画審議会議事録

日時：令和 3 年 5 月 14 日（金）

午後 2 時から

場所：津島市役所 5 階 第 1 委員会室

（出席）

江口忍委員、千頭聡委員、三浦哲司委員、伊藤久夫委員、青木啓委員、浅井彦治委員、石原弘乙委員、小出英一委員、小坂井智弘委員、古江俊博委員、佐藤彰記委員、安田清時委員、山本達彦委員、横井一雅委員、吉田祐衣委員

（欠席）

加藤文規委員、前田明美委員、服部綾子委員

【配布資料】

資料 1 津島市総合計画審議会委員名簿

資料 2-1 パブリックコメントの報告と対応方向

資料 2-2 第 5 次津島市総合計画（案）修正部分

資料 3 第 5 次津島市総合計画（案）まちづくり指標の修正

資料 4 津島市総合計画審議会のスケジュール

1 開会

本日出席委員の紹介

会長あいさつ

（会長）

この会議も佳境にはいつてきた。本日はパブリックコメントの結果や対応方針が示される。計画としてはおおむね固まりつつあり、最終回は答申の予定なので、議論としては本日が実質的に最終回となる。積極的にご意見をお願いしたい。

本日、自宅で仕事をしていたら、津島市周辺の観光スポットや店舗などが東海テレビで紹介されているのを拝見した。とてもいい内容で、駅前の魅力を再発見した。

では、まず議題 1 について事務局から説明をお願いしたい。

2 議事

（1）パブリックコメントの報告と第 5 次津島市総合計画（案）の修正について

（事務局）

資料 4 に基づき、総合計画審議会スケジュールについて説明。資料 2-1、資料 2-2、資料 3 に基づき、パブリックコメントの報告と第 5 次津島市総合計画（案）の修正部分について

説明。

(会長)

事務局より説明があった。パブリックコメントの内容を踏まえて修正案が示されたが、この案に対してご意見やご質問があればお願いしたい。

(委員)

パブリックコメントの5番目のご意見について。変更にともない、法律の「施行」から「制定」にかわっているが、問題ないか。

(事務局)

(意図的に変えているわけではないが、) 3つの法律が制定されたという意図をわかりやすく表現させていただいた。

(会長)

その他、とくにご意見もないようなので、議題1「パブリックコメントの報告と第5次津島市総合計画(案)の修正について」はこれで終了とする。

次に、議題2「第5次津島市総合計画(案)の推進に向けた意見について」、事務局の説明をお願いしたい。

(2) 第5次津島市総合計画(案)の推進に向けた意見について

(事務局)

概要説明(答申案とともに、今後の計画の推進に反映)

(会長)

事務局より説明があった。ご意見などがあればお願いしたい。頂いたご意見は、全部ではないが、答申案や実施計画など具体的な取組に取り入れていく予定とのこと。計画は策定して終わりではないので、これから計画を具体的に進めていくにあたり、意識してほしいことなどをご意見いただきたい。

(委員)

基本構想のなかの将来都市像とまちづくりの目標は、民間企業の「クレド」や「コアバリュー」と呼ばれるものにあたる。ある企業では、「クレド」や「コアバリュー」やそれに基づく行動を示した名刺大の折り畳み式のカードを社員に持たせて、企業の価値を高めるように取り組んでいる例がある。同様に、市職員の日々の行動指針として計画を浸透させる必要がある。こうしたカードを名札の裏に入れて市職員が将来都市像などを認識できるように工夫されたらどうだろうか。すぐには難しいが、時間を重ねて取り組んでいくことで大きく変わっていく。

(委員)

一点目は、先ほどのご発言と重複するが、総合計画は策定後の実行が大事なので、推進するための工夫が必要。市職員が計画を理解して適切に推進するために、計画の内容をしっかりと浸透させることが大事である。二点目は、本計画の特徴としてSDGsの推進がある。市内だけでなく、事業所や市民がともに進めていく必要があるので、戦略的に取り組んでほしい。

(委員)

総合計画が9月に策定された後、どのように市職員に広められていくのか。具体的に、計画に書かれた施策などの内容がどのように各課に浸透されるのか。気になるので教えていただきたい。(第4次計画が策定された際と同様の対応を考えてよろしいか。)

(事務局)

各分野の施策・事業があり、横断的に進めていくことが大事である。次の時代に対応した新しい計画となる総合計画について、幹部職員はもとより、若い職員にも周知することが大事であり、全職員に浸透するように努めていきたい。

(事務局)

総合計画は大きな方針や広い分野の内容であるので、これに基づき3か年の実施計画で具体的な年度計画を作成し、課の目標として掲げて推進していく。併せて、市職員は課の目標に沿った個人の目標を掲げて業務に取り組んでいく。そうした仕組みを適切に運用して着実に計画の推進を図っていく。重要なのは、全職員に総合計画の内容を浸透させ、目標をもって実践していくことを意識することである。

(委員)

市職員一人ひとりが行動の指針を持つことに加えて、今後の計画や取組を外部に知ってもらえるように発信することが大事である。年配の方は、議会だよりなども読まれると思うが、若い世代にも市政や市の現状を知って自分事として感じてもらうようにSNSを活用するなど、若い世代に届くように情報発信してほしい。市のInstagramなどのSNSは、観光関連を中心に情報発信を行っているが、さらに暮らしや市の方針、取組なども発信していくと若い人の目にとまる。また、職員の意識啓発にもつながるのではないかな。

(会長)

市職員の総合計画の認識・業務への反映と広報の問題が大事かと思う。広報については、総合計画の中身を全部伝ようとすると難しくつまらないものになりがち。濃淡をつけて伝える必要がある。すべて公平に伝える必要はないので、例えば子育てについて取り組んでいることを市民に対して伝えていくなど、市として特に重要な施策を明らかにして市民に伝えたいところが市民にわかりやすいと思う。

(委員)

各委員のご意見やパブリックコメントにもあるように、やはり今後の計画の進行管理が大事

である。これからは、分野別の進捗状況について、市の内部だけで評価するのではなく、外部評価も必要で、それは、施策レベルで毎年進められているのか外部評価したうえで内部の検証につなげていくことが必要だ。

(会長)

総合計画は10年の計画期間で作っている。これからの10年で、リニアの完成やコロナ対応など、津島市を取り巻く状況も大きく変わってくる。さらにポストコロナの状況も見通すのは難しい。5年後には状況は大きく変わるかもしれないので、必要以上に計画の内容に固執するのではなく、実施計画などにおいて、社会や地域の変化に応じて柔軟に具体的に取り組む必要がある。

(副市長)

ご多忙のところ、またコロナ禍のなか、お集まりいただき貴重なご意見をいただきありがとうございます。昨年の10月から5回にわたりご議論いただき、ここまでまとめあげていただいた。先ほどご意見をいただいたように、将来都市像にある、住んでみたい、住んでよかったと思われる方が一人でも多くなるように各施策を推進するためには、市職員1人ひとりが総合計画の内容をしっかりと理解することが重要である。また、計画を進めていく際には、市職員だけでは限界があるので、市民、市内在住・在勤の方など、市に関わりのあるすべての方にご理解とご協力をいただき、一緒に施策を展開することが重要である。広報についても、会長のご意見のように、濃淡をつけながら津島市が目指すものをわかりやすく伝えていく必要がある。進行管理については、パブリックコメントや委員のご意見のように、しっかり評価できる仕組みを検討していきたい。コロナ禍で先行き不透明であり、10年間で環境が大きく変わる可能性もあるので、状況に応じて修正を図りながら対応していきたい。多様なご意見を踏まえながら、多くの市民も巻き込んでしっかり施策を展開していきたい。第6回には市長への答申をいただくので、引き続き委員の皆様方にはご理解とご協力をお願いしたい。

(会長)

では、進行を事務局に返す。

3 その他

(1) 今後の予定について

(事務局)

最終回となる第6回審議会において、答申案の討議と市長への答申となる。答申案については、これまでの審議会の意見を踏まえて、江口会長と協議して答申案を作成し、委員の皆様事前に郵送させていただく。

第6回審議会は、6月25日(金)午後2時からとなる。後日、出欠の確認を含めて開催通知を送付するのでよろしくお願いしたい。